

<令和5年2月1日より保険適用>

**D007 血液化学検査 区分：E2**  
**48 オートタキシン**

**【保険点数】**

194点

**【製品名(製造販売元)】**

ATX オートワコー (富士フィルム和光純薬株式会社)

**【主な対象】**

慢性肝炎及び肝硬変の患者(疑われる患者を含む)

**【主な測定目的】**

血清又は血漿中のオートタキシンの測定(肝臓の線維化進展の診断の補助)

**【測定方法】**

酵素法

**【検 体】**

血清又は血漿

**【有用性】**

オートタキシン(autotaxin、以下ATX)の検査方法には、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法(FEIA法)又は化学発光酵素免疫測定法(CLEIA法)がある。本試薬は、各種汎用生化学自動分析装置を用いて約10分でATXの測定が可能な酵素法試薬(単位：U/L)であり、上記FEIA法と良好な相関性が得られている(n=298、回帰式 $Y=10.7X+0.1$ 、相関係数 $r=0.993$ )。

臨床現場において、慢性肝炎や肝硬変を含む慢性肝疾患における肝臓の線維化状態を非侵襲的に診断し、線維化進展の診断、モニタリング、治療法への反映などに有用である。

**【説 明】**

ATXは、ヒト悪性黒色腫細胞の培養上清より、細胞遊走促進因子として単離された分子量125kDaの糖蛋白質である<sup>1)</sup>。ATXはリゾホスファチジルコリンを加水分解しリゾホスファチジン酸(LPA)を産生するリゾホスホリパーゼD活性を有する酵素であり<sup>2)</sup>、多様な生理作用を発揮する。一方で、疾患との関係性も報告されており、肝線維化の組織学的段階と血清ATX活性との間に有意な相関関係が示された<sup>3)</sup>。ATXにより産生されたLPAが肝線維化の主役である肝星細胞の増殖とアポトーシスを抑制させることで、肝線維化を促進する可能性が示唆された<sup>4)</sup>。ATXレベルは肝線維化ステージに従い上昇し、疾患の進展にも関与するとされる。

肝線維化の進展により、肝硬変や肝臓癌に至ることが知られており、肝臓癌発症リスクの予測や治療方針の決定において、肝線維化の診断は重要である。肝線維化診断の確定診断のためには肝生検が必須である

が、侵襲性が高く、合併症などのリスクも伴うことから、侵襲性が低く簡便な線維化マーカー等による検査により、肝生検を実施すべき患者数を絞り込むことが重要となる<sup>5)</sup>。

本試薬は、多くの病院施設に導入されている汎用生化学自動分析装置で測定可能であり、新たに装置を導入する必要がない。さらに10分で測定が可能であり、ASTや $\gamma$ GTなどの肝機能マーカーと同時に結果を得ることができる。

ただし、ATXは性差があること、妊婦、および悪性リンパ腫患者、進行した悪性腫瘍患者において上昇すること、またステロイド服用により低下することに注意する必要がある。

**【留意事項】**

1. 別添1第2章第3部第1節D007(41)アを次のとおり改める。

(41)オートタキシン

ア。「48」のオートタキシンは、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法、化学発光酵素免疫測定法又は酵素法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。

イ. 本検査と「37」のプロコラーゲン-III-ペプチド(P-III-P)、「36」のIV型コラーゲン、「40」のIV型コラーゲン・7S、「43」のヒアルロン酸又は「48」のMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

**【参考資料】**

- 1) Stracke ML, Krutzsch HC, Unsworth EJ, et al. Identification, purification, and partial sequence analysis of autotaxin, a novel motility-stimulating protein. *J Biol Chem* 1992; 267: 2524-9.
- 2) Umezū-Goto M, Kishi Y, Taira A, et al. Autotaxin has lysophospholipase D activity leading to tumor cell growth and motility by lysophosphatidic acid production. *J Cell Biol* 2002; 158: 227-33.
- 3) 池田均, 渡邊尚子, 中村和宏, その他. 消化器疾患における血清オートタキシン測定の意義. *臨床病理* 2009; 57: 445-9.
- 4) 池田均, 矢富裕. リゾリン脂質と肝臓. *臨床化学* 2008; 37: 45-52.
- 5) 日本消化器学会「NAFLD/NASH診療ガイドライン2014」(オンライン), 入手先 < [https://www.jsge.or.jp/files/uploads/NAFLD\\_NASHGL2\\_re.pdf](https://www.jsge.or.jp/files/uploads/NAFLD_NASHGL2_re.pdf) >

**【製品関連 URL】**

<https://diagnostic-wako.fujifilm.com/product/seikagaku/index.html>

(文責：富士フィルム和光純薬株式会社)

監修：日本臨床検査医学会臨床検査点数委員会)